

委員会名	平成 30 年度 第 2 回教育に関する事務の点検・評価委員会		
開催日時	2018 年 12 月 12 日（水）14:00～16:00	開催場所	豊島区庁舎教育委員会室
出席者	<p>【教育に関する事務の点検・評価委員】 壺内委員、工藤委員、福元委員</p> <p>【豊島区】 城山教育部長、佐々木庶務課長、木山学務課長、高桑放課後対策課長、 宮本学校施設課長、加藤指導課長、鮫島教育センター所長、関統括指導主事</p> <p>【事務局】 古味、荒木田、池田</p>		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業分析シート 		
傍聴人	0 人		
議事録作成者	庶務課学校 ICT グループ : 池田	作成日	2019 年 12 月 21 日（金）

発 言 者	発 言 内 容
壺内委員長	<p>ただ今から、第2回教育に関する事務の点検・評価委員会を開会いたします。本日は3つの事業について点検と評価を行います。</p> <p>評価方法につきましては、第1回でも説明がありましたが、資料の1ページに記載してある方法で行います。</p> <p>では、最初の事業「児童・生徒の推移と隣接校選択制」について学務課長より説明をお願いします。</p>
木山学務課長 壺内委員長	<p>【資料1：児童・生徒の推移と隣接校選択制】について説明ありがとうございます。児童・生徒の推移と隣接校選択制についてご説明いただきました。</p>
木山学務課長	<p>区立小学校から私立中学校、他区の中学校へ進学を希望する、隣接校を選択する理由等は掴まれていますか。</p> <p>隣接校選択の理由では兄弟関係と、学区域の関係で近くの学校の希望が多く、その他では、友人関係や一部の中学校でのみ実施している部活動を希望しての選択が多くなっています。</p>
工藤委員	<p>隣接校選択制が導入された当初、各学校が良い教育を目指して切磋琢磨していました。そういった形が人口増等により変化してきていると感じます。こういった変化は豊島区だけなのか、近隣区、東京都内の状況等についてお聞かせ願いたい。</p>
木山学務課長	<p>ご指摘のとおり、都内では同じ傾向、児童数の増加が見られます。新宿区では昨年度、小学校の隣接校の選択制度を廃止しました。目黒区も今年度から休止となりました。</p>
福元委員	<p>隣接校選択において、抽選の結果、希望校に入れなかった保護者からはどのような意見が出ていますか。</p>
木山学務課長	<p>通学距離等の特別な理由がある場合は、指定校変更制度といった別の制度がありますので、そちらをご案内しておりますが、児童数の増加等から難しい場合があります。</p>
壺内委員長	<p>ありがとうございました。この事業の効率性と有効性を評価するにあたり、委員の皆様よりご意見を頂戴いたします。</p>
工藤委員	<p>かなり難しい問題であると思います。今までの事業内容を急に変わるのであれば、区民への説明責任をしっかりと果たす必要があります。どのように各学校が教育内容、活動をより充実させていくことができるか。これは指導課と連携になると思います。学校によって児童生徒数にかなり差があったかと思います。地域的なものなのか、交通、アクセスの問題なのか、そういった要因について、豊島区として精査していくのか否かは厳しく問われる可能性があります。私としては、今の形が全て機能しているということには若干戸惑いを感じます。</p>
福元委員	<p>子供の数が増えてきていることについて、嬉しいと感じておりましたが、実際に教室や設備が不足してきている状況は難しい問題だと思います。</p> <p>適正な人数、教室の確保等を安定させるために選択制の仕組みを変えて</p>

	<p>いく事は時代の流れと言えらと思います。</p> <p>保護者としての意見ですが、兄弟が別の学校となってしまった場合、行事が重ならないような配慮を頂けると助かると思います。</p> <p style="text-align: center;">————— 委員よる審議 —————</p>
壺内委員長	<p>委員3名で協議をしました。「児童・生徒の推移と隣接校選択制」について評価をいたします。効率性についてはA評価、有効性についてはB評価になります。</p>
工藤委員	<p>やはり7年間の積み重ねと、データがしっかりと揃っている事、先を見越した形で効率的に事業が実施されていると感じました。ただ、それが全てに有効に機能しているかとなると、色々な付帯事項が付いてきますので、もう少し考える余地があると思います。</p>
福元委員	<p>隣接校選択制について各学校が工夫をしてきたという経緯があると思います。また、地域の中で小学校は大切な施設だと思います。地域の中で子供が育つという観点から、どこの学校であっても保護者、子供が満足できるようになっていければと思います。</p>
壺内委員長	<p>続いて「学校開放事業」についてご説明をお願いします。</p>
高桑放課後対策課長	<p>【資料1：学校開放事業】について説明</p>
壺内委員長	<p>ありがとうございました。委員の皆様からご質問を頂戴します。</p>
工藤委員	<p>豊島区は来年度、体育館が冷暖房完備されるとうかがいましたが、いかがでしょうか。</p>
宮本学校施設課長	<p>体育館の冷暖房化につきましては、小・中学校30校中6校ございます。残りの24校につきましては来年度一年かけて冷暖房設備の設置を進めていく予定です。</p>
工藤委員	<p>先ほどの説明にあった、夏場の窓を開けて使用することによる、騒音の苦情が少しでも解消されるのかと思います。環境が良くなると使う団体も増えるのではないかと思います。</p>
高桑放課後対策課長	<p>例として体育館を使用する場合は10名以上、そのうち6名は区内在住、在勤といった条件があります。環境が良くなったことで急激に増えるかということは予測が難しいと思います。</p> <p>団体登録の希望には全てお受けしますが、学校施設の使用枠がほぼ満杯の状態となっています。既存の団体と新規の団体で一定の決まった枠を分け合う形になります。結果、既存団体の使用枠が減ることになりますし、新規登録を希望していた団体も希望を下げってしまうかも知れません。</p>
工藤委員	<p>学校開放運営委員会、利用者協議会の運営方法によって状況がかなり変わってくることを学校現場に居た頃感じていました。こういった委員会、協議会に対して区はどのような研修や指導を行っているのでしょうか。</p>
高桑放課後対策課長	<p>学校開放運営委員会は校長、副校長の他、学校開放管理の職員も入っております。いわゆる閉鎖的な、一部の団体が優遇されるようなことは無いと理解しております。</p>
福元委員	<p>登録団体ですが、バレーボールや少年野球チーム等が多いと思いますが、</p>

高桑放課後対策課長	最近で新しい取組、活発な活動をしているのはどのような団体でしょうか。 最近あったケースでは社交ダンスの団体から登録希望がありました。社交ダンスのシューズは靴底が固く、体育館の床を傷つける恐れがあるため、靴裏にやわらかい素材を張るなどの措置をすることで、団体登録を認めたことがありました。
壺内委員長	学校開放は非常に人気が高いと感じましたが、特定の団体とのしがらみといったことや、申し込んだが利用できなかったといった話はありませんか。
高桑放課後対策課長	そういったことは無いと認識しております。委員会等がございますので、適正に運営されていると思いますし、そういったことがあれば、指導をして参ります。
壺内委員長	委員会等は副校長等、学校の方が入りますが、何時頃から開催されるのでしょうか。
高桑放課後対策課長	学校によって違いはありますが、概ね19時頃以降になるかと思います。 ————— 委員による審議 —————
壺内委員長	学校開放事業について評価をいたします。委員からの意見を総合し、効率性についてはA、有効性についてもAという評価になります。
工藤委員	大変な利用者数となっています。また色々な課題に対しても、事業が滞らないような工夫をされている等、先を見通した事業運営をしていると思います。
福元委員	とても活発に利用されていると思います。地域コミュニティの形成といった所にも利用されている事業だと思います。開放管理員の長時間勤務といった検討事項、スキップの校庭開放時等については引き続き検討をお願いしたいと思います。
壺内委員長	続きまして、「日本語学習支援：通訳派遣」について教育センター長よりご説明をお願いいたします。
鮫島教育センター長	【資料1：日本語学習支援：通訳派遣】について説明
壺内委員長	ありがとうございました。これから外国人の子供達は増加すると思います。ご質問等ありましたらお願いいたします。
工藤委員	公立学校と大学では違うと思いますが、私の大学でもかなり留学生が入ってきています。主に中国、ベトナム等のアジア系が多くなっています。まず、日本語の習得レベルを確認しています。外国から来た子供達はすぐに公立学校に入っていくのか、それとも日本語指導教室である程度、会話を学んでから学校に入るのか。その上で通訳派遣を活用されているのでしょうか。
鮫島教育センター長	初期指導の通訳と、日本語指導教室は同時に利用します。まず、学校に在籍した時点で事務手続き等に関連した通訳の依頼が学校から入ります。最初の授業、特に小学校低学年は通訳派遣がされます。同時に、1日の内の半分程度ですが日本語指導教室も始まります。
福元委員	小学生で初めて日本語に触れる場合と、中学生での場合など、日本に来

<p>鮫島教育センター長</p>	<p>る時期によって、様々な言語の課題があると思います。中学生のように成長してから学ぶ場合は更に難しさがあると思いますがいかがでしょうか。</p> <p>福元委員の仰るとおりでございます。中学校で初めて日本語を学ぶ場合は非常に困難です。小学校では遊びを通じて覚えることができるため、習得が速いです。中学校は発達の段階の他に、進路の問題もあり非常に難しい問題となっています。</p>
<p>工藤委員</p>	<p>効率性については、限界の際まで努力をされていると思います。もっと人的な余裕を持たせられないかと感じました。有効性については、これなくしては教育は始まらない。といったものであり、豊島区としては絶対に離すことができない事業だと思います。今後、社会情勢的に増加が見込まれますので、強化を図っていく必要があると思います。有効性はかなり高いと思います。</p>
<p>福元委員</p>	<p>先ほどの説明にありましたが、通訳派遣の際には兄弟関係をまとめて説明できるように調整するなどの工夫により、効率よく事業展開されていると思います。また、言語を覚える中で文化・生活といった部分が一番難しいかと思いますが、様々な言語が増えてきている中で、通訳の方々とは細かく意味の確認等をされていると思います。大変有効な事業だと感じました。</p>
<p>————— 委員よる審議 —————</p>	
<p>壺内委員長</p>	<p>説明をいただいて、携わる方々が限界まで尽力されていると感じました。それでは日本語学習支援、通訳派遣について評価いたします。効率性についてはA、有効性についてもAという評価いたします。</p> <p>これで本日の3つの事業について評価が終了しましたので、審議を終了いたします。委員の皆様ありがとうございました。</p>
<p>佐々木庶務課長 壺内委員長</p>	<p>事務局より次回の日程について報告</p> <p>以上を持ちまして、第2回教育に関する事務の点検・評価委員会を閉会いたします。皆様ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">————— 閉 会 —————</p>